

旭川市市民参加推進会議（令和6年度第4回）会議録

---

日 時 令和6年11月29日（金） 午後6時30分～午後8時30分

場 所 旭川市総合庁舎7階大会議室B

出席者 委員9人

鹿又委員，小松委員，椎名委員，杉山委員，谷委員，中込委員，長谷川委員，  
福屋委員，山本委員（50音順）

事務局4人

片岡部長，松山課長，青木補佐，朝日主査

傍聴者 なし

資 料 資料17-3 「課題解決検討シート」（第3回会議まとめ）

資料19 「課題解決検討シート（市民参加の周知）」

資料19-3 「課題解決検討シート（市民参加の周知）」（第3回会議まとめ）

---

## I 開会

委員の9人が出席したため，条例第19条の規定により会議の成立を報告した。

## II 議事

### 1 SNSの掲載について

<会長>

「SNSの掲載について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料17-3を説明

<会長>

前回会議の内容について報告があったが，以上でよろしいか。

（一同同意）

### 2 市民参加の周知について

<会長>

議事2「市民参加の周知について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料19-3を説明

<会長>

資料19の「人とのつながり」について，意見交流をはじめ。

（BOYSとGIRLSの2グループに分かれ，意見交流）

<会長>

意見交流した内容について、GIRLS グループから発表をお願いします。

<GIRLS グループ>

市職員と市民一人一人をつなぐというのは、お互いに難しい部分がある。

まちづくりに積極的に取り組んでいる人に潤滑油になってもらえると、結果的に人がつながっていくと思う。

今はデジタル化が進んでいるが、便利になればなるほど関心が薄れてしまうという問題を抱えている。「伝わる」ということを考えると、口コミはやはりなくてはならない。特に町内会や育児サークルなど、小さなコミュニティを効果的に利用することも一つの方法だと考える。出前講座の中で、市からお知らせなどをすると伝わりやすい。口コミのパワーは、侮れないと思う。

<会長>

BOYS グループの発表をお願いします。

<BOYS グループ>

(学生の観点から)

大学のゼミによって活動内容が全然違う。私が所属しているゼミでは、ボランティアを中心に活動しているため、市役所との接点ができるがこの場にいるが、市とは全く接点のないゼミもある。ゼミ内で話題になるように、市から大学に掛け合う方法もあると思う。また、市主催のイベントでも、ボランティアやアルバイトなどを通じて、市と学生が接点を持つことができる。市民と職員が協力する土台が大事だと思った。

仲間同士の口コミとしては、自分がそうだったように、前任者から会議の雰囲気を知るとハードルも下がるため、影響が大きいと思う。

(委員経験者の観点から)

最初に委員となった審議会では、自分の考えに同意してくれた事務局の職員がいた。また別の審議会でも、事務局職員と取組について話し合う機会があり、とても楽しかった。委員を退任した現在も、当時の事務局職員と話し合える関係性を継続しているが、そのようなつながりは委員を経験していたから、できたものである。

口コミについては、チラシに書いてあるものよりも実際に話で聞く方がいい。自分であれば、やりがいや成功体験を聞くことで、委員をやってみたいと思う。

<会長>

次の「自由考案バージョン」について、グループを変えて意見交流する。

《1, 2, 3グループに分かれて, 意見交流》

<会長>

2グループから発表をお願いします。

<2グループ>

SNSのバナー広告を利用し, そこから市のホームページにつながる仕組みや, 「マイタウンあさひかわ」など市の情報番組で, 公募のお知らせができたらいと思う。

現在, 公募委員を募集している審議会のチラシがとても見やすいため, 「公募チラシコンテスト」を開催しても面白そうだという話になった。

バスやJRなど公共交通機関に広告を出す方法もいと思う。

高校や大学の授業を使って市の公募委員の仕組みを説明し, 市民の意見を届けることで一緒に参加ができるということを知ってもらう。同時にチラシも配布できれば, 学びとセットになって, さらにいいのではないか。

市主催のイベント内で告知をするなど, 直接会って知ってもらうということが大事だと思う。

市のYouTubeで, ドキュメンタリー番組を彷彿させるような, 実際に委員の話が聞けるものを作成しても楽しそう。

今, 委員になるためには18歳がボーダーになっているが, 特別卒などで高校生から参加できるようになるともっと伝えやすくなったり参加者が増えたりするかもしれない。

文字数の多い作文を書くことがハードルになるため, 違った表現方法でも可能になるといいという案もあった。

<会長>

3グループの発表をお願いします。

<3グループ>

聴力で伝えるというところで, 「ながらでも聴ける」ラジオ放送を利用する。買物公園の街頭放送で明るい感じで伝えることもいと思う。

文字量や情報量が多いポスターだと伝えることは難しいと思う。まずは足を止めて, それから内容を理解して, さらに一步「申し込む」までとなると, 多くのステップを踏むことになるため, 興味を持たせることは難しい。

委員公募を知らない人たちに興味を持ってもらうために, 広報誌で会議に密着した特集を組んではどうか。

街頭でティッシュ配布など, そのくらい強引に足がかりを作ってもいいかもしれない。

<会長>

1 グループの発表をお願いします。

<1 グループ>

PTA の研究大会には、上川教育局などが情報提供する時間がある。参加者は教育や子育てに関心のある方であるため、市もそこで周知したり、教育や子育てに関連した会議のチラシを配付すると効果的だと思う。

若者には「会議」という名称だと、ハードルが上がるため、「ワークショップ」のような堅苦しくないネーミングにすることも1つの方法だ。

<会長>

では最後に、今日の意見交流では、「BOYS」「GIRLS」というグループ分けを試みたが、感想を一言ずつお願いしたい。

<委員>

- ・「BOYS」「GIRLS」グループというのがとても楽しかった。少し若返ったような気持ちになれた。ネーミングは大事だなと思う。それだけでワクワクする。そういうところにもヒントがあるのかなと実体験ができたし、楽しむことは大事だと思った。
- ・色々な会議に出ているが、本当にワイワイとできる審議会に出られたこと、そして「GIRLS」「BOYS」は若くなったようで嬉しかった。また次の機会も期待している。
- ・皆のアイデアを聞くことがとても楽しい。自分のグループが最高と思っていたのが、他のグループもとても良く、本当に楽しいと思った。
- ・今まで委員を経験してきた中には、毎回200ページぐらいの資料が2～3日ぐらい前に届く会議もあった。確かに大変だったが、読まなくてはならないと一生懸命だった。また別の会議は50ページぐらいの資料が会議当日に配布されるため、いつも30分前に来て会議に参加していたが、自分にとっては、それが新たなものに挑戦する機会であったと思う。これからも新しい発見に期待したい。
- ・会議を重ねる度に話がしやすくなり、とても楽しい。どのグループも皆が意見を出せて、意見を潰すこともなく、本当にいい雰囲気だと思う。
- ・BOYS グループは実質2名だけだったが、ヘルプに2名入ってもらって、色々なアイデアも出せて楽しかった。
- ・この会議は、旭川の未来を様々な立場や世代の方と一緒に考えていく大きなテーマを持っていて、旭川の未来は明るいと感じさせられる。役職や性別など関係なく、平等に話ができる一員

に加えさせてもらいたい。旭川のことを明るく考えている人たちがたくさんいるということ、未来を担う子どもたちに伝え続けていきたいと思う。

- ・私が知っている他の審議会は、この会議のような明るさはない。だから、やはり男女が半分ぐらいつづることが、雰囲気作りには影響があると思う。色々な世代と性別の人たちが混ざり合い、大事なことを決めていくということはとても大切だと実感している。自分の意見を受け止めてくれる空気感の中では、人は話しやすい。だから、旭川という一つのまちを考える時に、堅苦しいだけではなく、人がたくさん意見を素直に話せて、誰も否定し合わないということは大事ななと感じた。

<会長>

本日の審議は終了とする。